

第22回全国ジュニア・ラグビーフットボール大会 ゲームレポート



12月29日（木）第22回全国ジュニア・ラグビーフットボール大会が、ラグビーの聖地東大阪市花園ラグビー場で開幕した。

北海道U15 スクール選抜チームは、東日本大会以降、雪により芝に上での練習ができない境遇にあるが、12月中旬に強化合宿を行い、チャレンジャーだからこそ絶対に走り負けない体力を備え、5年ぶり2度目の出場となる、花園第1グラウンドの第一試合に初戦を迎えた。



電光式スコアボードにスターティングメンバーが表示され、選手一人一人の名前がアナウンスされると緊張感とともにボルテージが上がる。

【初日：一回戦 vs 岐阜県スクール選抜】

北海道の KO で開始すると、相手陣 22m 付近でできたラックを 1 番、3 番が低く押し込みターンオーバーに成功すると左へ展開、10 番でポイントをつくり素早くラックサイドから相手 DF が揃わないスペースについて 9 番が左隅へ先制のトライ。 開始 30 秒のノーホイッスルトライである。



リスタートの KO がノット 10m となりセンタースクラムから、BK のサインプレーで突破を試みるが、アクシデンタルオフサイドで相手スクラムとなる。その後も相手陣 22 まで攻め込むがオーバーザトップ、ホールディングなど反則を重ねてしまい、自陣ゴールラインまで戻されチャンスから一転、最後はラックサイドを突破されトライを許す。ゴールも決まり 5-7 と逆転される。

その後も、相手陣深く攻めていた北海道であったが、13 分ハンドリングエラーで岐阜県ボールのスクラムとすると、ブラインドサイドを大きくラインブレイクされ、最後は CTB にボールが渡り、タックルが高くなってしまったところ、60m 走られゴール真下にトライを許す。ゴールも決まり 5-14。その後は互いに、攻守にわたって高いレベルの展開が続き、前半を終了する。



後半は、岐阜県の KO で始まる。開始 3 分岐阜県は、北海道の 22m 付近のラインアウトからドライブイングモールで押し込みラックとなると、すかさずオープンへ展開し最後は左隅にトライ。ゴールも決まり 5-21。リスタートの KO で相手の反則により 22m 中央でスクラムを選択。BK のムーブでゴールラインまで攻め込むが、オーバーザトップの反則でチャンスをものにできない。すると今度はブレイクダウンでサポートが遅れるとカウンターラックでターンオーバー。そのままラックサイドを突かれ追加点を許す。

その後もボールを動かす展開ラグビーで何度もゲインラインを超えるがブレイクダウンでの反則により最後まで自分たちの形にできなかった。今年強化してきたブレイクダウンの 2 人目の寄りを早くするところで、焦る気持ちからか、反則を重ねてしまい失点につながった。



【2日目：順位戦 vs 東京都スクール選抜】

2日目は、東日本大会 2nd ステージ初戦で敗れた相手への再挑戦となった。

北海道の KO から始まると 22mまで深く蹴りこんだボールを東京都は、冷静にハーフウェイラインまでキックで戻す。そのマイボールラインアウトから、BK へ展開、7番にパスアウトされたボールを9番で空クロスし、さらには10番を飛ばしたところへ12番がライン参加。相手 WTB をスワープでかわし、最後は FB をスピードで抜き去りトライ。開始1分、しっかりと準備したムーブで先制点を奪い5-0とする。



今度は、東京都の怒涛の攻撃が始まった。リスタート KO のボールを、東京都は BK へ展開し、キックでエリアを取りにくるが、ここは12番が戻り、ハーフウェイラインまで陣地を取り戻す。マイボールにしたいラインアウトを果敢に競りにいくが、惜しくもノックオンとなり相手スクラムとなる。

東京都の左右へボールを動かす9フェイズの攻撃を、素早く前に出る低いタックルで防ぎ、最後は相手のノックオンから陣地を挽回する。しかし、11分自陣 22mのラインアウトから BK へ展開、順目に連続攻撃から、次は逆目に展開し、さらに飛ばしパスで WTB にわたりスペースが空いた右隅にトライ。5-5の同点とされる。



互いの持ち味のキックによるエリアマネジメントや、ハイプレッシャーな DF で、攻防が続くが17分、センターラインからのキックをチェイスし、タックルで倒すも、ポップパスしたボールがサポートに来た FB に入りカウンターアタックをくらい、何とか自陣 10mで止めるが DF ラインが揃わないスペースへボールをつながれトライを許す。ゴールも決まり 5-12 とされる。

前半終了間際、北海道は相手陣深く攻め込み、ドライビングモールで押し込みチャンスをつくり BK へ展開するが、東京都の激しいタックルに阻まれ前半が終了する。



後半先制し追いつきたいところであったが、東京都のテンポの良い球出しと、FWの縦への突進にゲインラインを越えられ、DFが内へ寄ったところを最後は外へ展開され、開始1分でトライを許す。

北海道は、リスタートのKOから相手のノックオンでスクラムをもらおうと、さらにオフサイドの反則で、相手陣5mのラインアウトを選択する。このボールをしっかりと確保し、FW、BKが一体となり相手防御を揺さぶり、最後は密集からこぼれたボールを9番が押さえてトライ。ゴールも決まり12-19と1トライ差に迫った。



ここから波に乗りたいところであったが、リスタートのKOで、レシーブが乱れたところボールを奪われ、東京都の前に出るATに攻め込まれ、最後はゴールラインを越えられてしまうが、何とかグラウンディングを阻みキャリーバックとなる。しかしピンチは続き何度も低いタックルで凌いでいたが、ついにゴールラインを割られてしまう。後半9分ゴールも決まり12-24となる。

その後は4トライ、3ゴールを奪われ12-50でノーサイド。

中盤まで、一進一退の激しい攻防であったが最後は、地力で勝る東京都スクール選抜に突き放されてしまった。しかし『ここにきて絶対にやるこだわり（ALL北海道の戦いかた）』をしっかりと出し切ったゲームであった。



【最終日：7・8位決定戦 vs 熊本県スクール選抜】

熊本県の KO から始まると序盤は自陣での我慢の DF が続き、何度もキックによりエリアを回復し、得点が動かないまま中盤、熊本県のエリアを取りにきたキックを 12 番が蹴り返し、ゴール手前右隅へ好タッチとなりチャンスをつくる。そして、マイボールのラインアウトでドライビングモールをつくるが、熊本県の低い DF に押し戻され、崩れてしまったところ最後はラックの中でハンドの反則をしてしまいチャンスを逃してしまう。

その後、再びゴール前でラインアウトを選択すると、今年 FW が強化してきたモールを今度はしっかりと組むが、体格のある熊本 FW を押し切れずゴールラインを超えることができない。

終盤に入り今度は相手陣 22m のラインアウトからパスアウトされたボールを 7 番がディフェンスラインの裏へグラバーキックで攻め込む。コントロールされたボールは、ゴールライン手前で止まりこれに反応している 9 番が飛び込みラックとなるが、ゴールラインを越えることができず 0-0 で前半が終了する。



後半に入り熊本県のキーマンがサイズとスピードを活かし密集サイドを突破し、確実にゲインラインを越えてくる。ハーフウェイライン付近まで戻されたところで、ディフェンスラインが戻りきれずオフサイドの反則をしてしまい自陣 10m でラインアウトを与えてしまう。しかし、ここもしっかりと防ぎきり地域を挽回する。

その後、自陣 10m でノットロールアウェイの反則をすると又も、22m まで戻されここでドライビングモールを組まれ、ゴールを背負って必死に守るが、コラプシングの反則をしてしまう。アドバンテージの中、熊本県はボックスへ展開、前に出る固い守りでゴールラインを守るが、ここで長いホイッスル、反則のポイントへ戻されると、反応が遅れた瞬間ディフェンスラインのスペースをつかれ SO にトライを許す。ついに後半 6 分、均衡を破った熊本県が、0-5 とする。その後も両チームは体を張ったディフェンスでロスコアのままとロスタイムに入る。自陣 22m 深く攻め込む熊本県は、反則をしてしまい北海道のボールとなる。最後の 1 プレー、そこに劇的なドラマが待っていた。

ペナルティーからボックスへ展開されたボールは、9 番でラインブレイクすると、ラストパスは、12 番へ託された。二人のディフェンダーをスワープとスピードでタッチライン際を快走しゴール真下へ同点のトライ。その後自ら逆転ゴール決め、ここでノーサイドのホイッスル。

最後に笑って終える、悔いの残らない 40 分間にしようとした熊本戦。時計は 25 分、逆転勝利の歓喜の瞬間であった。



今年度の北海道 U15 スクール選抜のテーマ『ONE TEAM』を掲げ凌介キャプテン、太成バイスキャプテンを中心に全員ラグビーを目指し素晴らしいチームとなり、第 22 回全国ジュニアラグビーフットボール大会へ進むことができました。1st ステージから試合を重ねるごとに成長し、目標でありました花園 1 勝をクリアし、最高の結果を残してくれました。

凌介 (ONE TEAM) 組は終わることになりますが、ジュニアラグビーでの経験をいかし、これからの更なる活躍を祈念します。また、ミニ・ジュニアラグビーを経験した卒業生の皆さんが、これからもラグビーを続けてくれることを期待しています。

最後になりますが、今年度の北海道 U15 スクール選抜へご尽力いただきました、日本 IBM ・西山コーチ、日本協会・梅月コーチ、北海道大学、札幌学院大学、札幌山の手高校、道選抜 OB、堺ラグビースクール、保護者、帯同コーチ、そしてたくさんの方々のあたたかいサポートに支えられ、無事、大会に参加することができたことに、心から感謝申し上げます。

北海道ジュニアラグビーの更なる高みを目指し、努力してまいりたいと思いますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今シーズンご協力いただきまして本当にありがとうございました。

2016 年度 北海道 U15 スクール選抜
ヘッドコーチ 畠中 学